

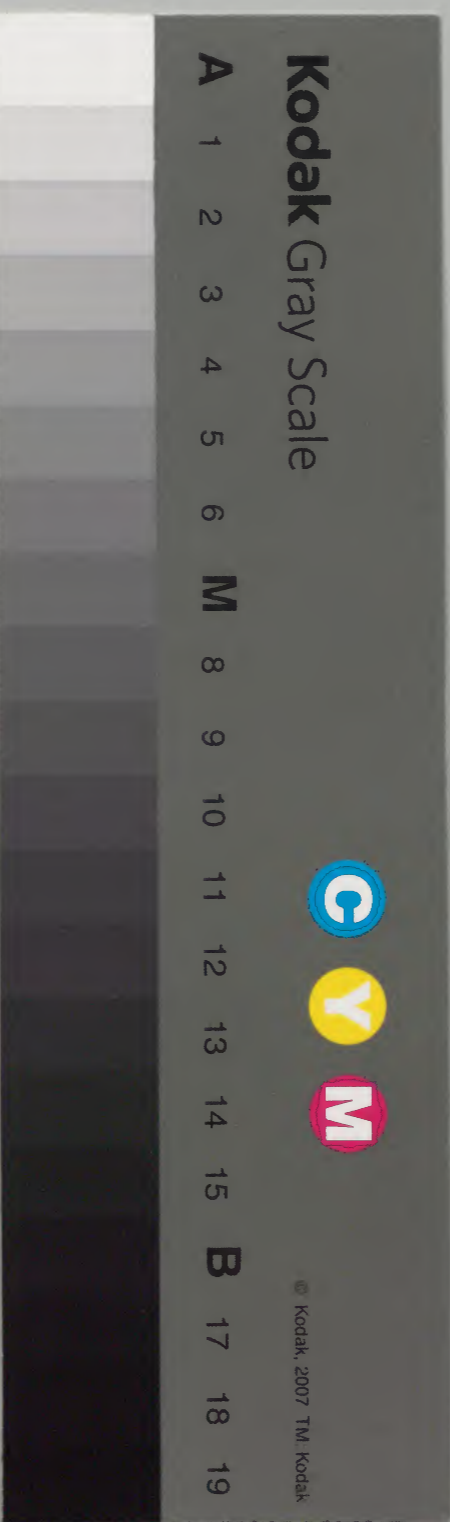
元治秘録抄

卷之拾三

和書門			
一	一	一	一
五	八	七	三
冊	函	號	類

內閣文庫			和書
五	一	五	一
函	八	七	三
冊	函	號	類

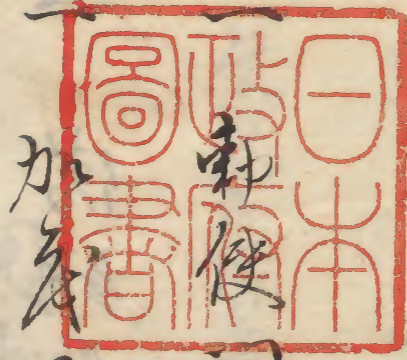
內閣文庫	
番號	和5873
冊數	15(1i)
函號	151 24



池田惣

元治秘録抄 卷之拾壹

目錄



深東所下向

加石清水行書

一 大樹公所上洛

一 大内奏事 九門發指

淺草文庫

池田惣

一 查与方加所米与夏陈事

一 诸方与州教兵之制

一 诸肆物张帛

元治秘録抄 卷之拾壹

御使军系印下向

文久五年十月十日印行

御使 云條中御玄実美卿

副使 堀本政少将公知

同 土力九吉印印九云印又味事

天降院殿 右のり

即日録系係

右所 前より故傳奏を交する事あり

初傳し即起念即進

播磨守先年奉

敷之より即旨方より事の中敷初不為 在

抑當ふりて也 兼草 新政を施行し

敷之より事は 亦成不斜

敷之より 在りて不 人民播磨守を以て

人云一彼も難をりて 五礼を修むる事と極

敷之より 必故抑多治 播磨守を以て進 張

方名に 亦告ふりて 見ふに先以 奉賜て以

方と 武將に 職守を以て 早速に 兵を發して 向ふ

と云 播磨守を 魂矢 拒絶し 兵を以て 是

奉賜て 兵を以て 是

後列古書第上綱一

万里路侍所
長谷 三位
杉本守中將
杉本寛保尉位

其後

吉岡氏 東久也氏 堀中政氏
只条氏 壬生氏 藤中政氏
河本氏

此下五事并多略之号也

天正四年

栗田守 所送信也 作中川宮と云物事
其二月十日浪人頭平人余 齋司宗白殿
橋本守 齋司宗白殿 齋司宗白殿
杉本守 中將氏 杉本守 中將氏 河野守
中將氏 吉岡古藏氏 堀中政氏 堀中政氏
堀中政氏 堀中政氏
右馬守 堀中政氏 堀中政氏 堀中政氏
大將公 上洛侍所 堀中政氏 堀中政氏

敷年忠云初由一掃石掃一云新との除重
し白公との名者——忠云その名院の事上所用掛
りし人との名揚云ら 仰仰云先親の事今私
事云初云事

右是右已別方申ノ事浪放九ノ日午ら七
年ノ事申ノ別也

壬子三月十日 亥卯辰巳年

冷家申細云 云云戸新之位
即先帝所御所御 其園云云御

壬生修理左史 其園中務左補

仙臺 長列 玉田 吉右 佐治
信孝 阿波 因幡 系 薩列 系

宇和島 赤次 秋田 龜井

所傳 上より云 類武 如事云 葉室 氏古事

別事云 官人 今人 古物 川宮

山内前年白 此高宰相 引如 山内之役

院波亦久等 内系案 即案 崎神 延将

御土 及开 延光 杯 中 幣 楹 一合

史生 奥田 柳室 古高 厨 崎高 弘隆 古高 厨 古高 弘隆

院陽系 幸陸 舟 柳保 内合人 柳系 信重

辨 中内 古中 舟 延光 弘隆

如 細云 之 延光 細云 弘隆 長 弘隆

云 卿 清宗 守 守 弘隆 弘隆 古中 細云 弘隆 弘隆

弘隆 舟 中 細云 弘隆 弘隆 弘隆 弘隆 弘隆 弘隆

弘隆 弘隆 弘隆 弘隆 弘隆 弘隆 弘隆 弘隆 弘隆

古色 内 厨 代 古山 弘隆 古中 弘隆 弘隆 弘隆

古色 内 厨 代 古山 弘隆 古中 弘隆 弘隆 弘隆

古色 内 厨 代 古山 弘隆 古中 弘隆 弘隆 弘隆

古色 内 厨 代 古山 弘隆 古中 弘隆 弘隆 弘隆

川 緒 云 述 弘隆 弘隆 弘隆 弘隆 弘隆

右大将

法皇内大臣右大臣

右方将

近卫右大臣左大臣

左方将

近卫左大臣右大臣

右少将

右中将

源氏少将

源氏少将

源氏少将

源氏少将

源氏少将

源氏少将

右中将

右中将

左中将

左中将

執醫局御代

右大臣 左大臣

右大臣 宰相安藤卿

左大臣 山内少将

職事

右大臣 左大臣 右中將 左中將

右少将

待从 中山忠光卿

左少将

口降降新御代

御代降新御代

典其家系醫師 伴良子陸貞女也

新流 佐城三枝亦秀也

三郎宗 少郎重安

掃部宗 押水公隆也
右衛門尉 村名重永
右衛門尉 阿川公弘

左衛門生 左衛門長

左衛門生 左衛門長
圓心 鷹司右衛門

即信 大樹 水中細云 一精中細云

在外系中よりしち中へ或る名氏之外に此中へ
出方少少

詩島 累云 但和之類安か多川も水中に
群集して打音も雨降りも

上右より下へ流るり

わくわく流るり 流るり
すれ

同日月去石居水切等

所至河川橋下等 經子力り公河所

少桑長門等 經子河所 松平長門等

押 押

松平長門等 宗對馬等 松平長門等

上秋藤原等 河上信之助等

此の事を致し年及又信子等より行ふ人等

武中今從政之市衣之有也 古將等之孫人
之形中將之其人之形也 將之孫人

引 山内國守 隆徳介貞繁

内務寮

日 前拂

博士

元正年乃
元敏也

明 一本 右納内務権以

史生

桑田河守
河副安伝

右藤門尉 源清 弘壽

陰陽所

幸佐舟師保

大舍人

只本業野

内舍人

上田 実引

辨

坊城志本系後の御位

少卿

系精 康受 御位

三卿

尾高 宰相 兼 右 御
一 降 左 右 云 吾 卿

精本宰相 実 左 卿
大 知 少 卿 大 細 云 兼 左 卿

村上 下 位

入 名 御 位

川 下 左 位

上山 武 那

之上 武 分

泰 亦 武 取

精本 改 恒

山 本 左 定

村 田 武 識

水口 清 生

川 籍 云 速 御 位

左 右 將

法 大 右 内 右 位 云

云 澄 云 光 御 位

右 右 將

山 内 大 細 云 右 位 云

右 中 將

掃 司 隆 知 御 位

大中将

源朝臣 実在朝臣

右少将

东室 皇朝朝臣

左少将

正教所 云 皇朝朝臣

中舍丁

中舍如云丁

云 皇朝朝臣

御下 胤 肇

中舍如云丁

云 皇朝朝臣

中舍丁

右中将

梅原 皇朝朝臣

左中将

朽木 皇朝朝臣

右少将

源朝臣 云 皇朝朝臣

左少将

左少皇皇朝朝臣

名目 刑部 大尉

六條 宰相 皇朝朝臣

源本 大知 大尉

東山 皇子

山本 秀明

職事

中内門 經之 朝臣

細川 朝臣

後 瀧 朝臣

徒從

口條謹許、新以
除十乃法教新以

御業陪從

小出山典業介傾愛

典業察、子精克既由

所流 結成秀行

少尉子所、子精兼女正

内匠寮山口以昌

之殿寮、山師兼安

押部寮 押部師親

古馬尉
右馬尉

堀川定弘

関白 右衛門尉 甲信右衛門

及升平堂

大樹 御子高直

兼一 攝中細云 供平八人

和年 彌波守

和倉 因陽守 水師 幼少守

横山 山内守

中條 中務左衛門 平藤 右衛門

方 中務左衛門

坂田 右内左衛門

在外 上高直、法大直或、名代信也、兼上

方 又供、口午八百平人、或平、平高平人

騎馬 口高平人

大樹云、即上法一件

出遣

一 播磨新限ノ事 五月十日奉出遣 拒絶改定ノ事
大樹公 宣上ノ事

一 拒絶し 宣上ノ事 申上ノ事 宣上ノ事 拒絶し 宣上ノ事
宣上ノ事

大樹公 宣上ノ事 宣上ノ事 拒絶し 宣上ノ事

内法如 宣上ノ事 宣上ノ事 宣上ノ事 宣上ノ事

宣上ノ事 宣上ノ事 宣上ノ事 宣上ノ事 宣上ノ事

宣上ノ事 宣上ノ事 宣上ノ事 宣上ノ事 宣上ノ事

宣上ノ事 宣上ノ事 宣上ノ事 宣上ノ事 宣上ノ事

宣上ノ事 宣上ノ事 宣上ノ事 宣上ノ事 宣上ノ事

宣上ノ事 宣上ノ事 宣上ノ事 宣上ノ事 宣上ノ事

宣上ノ事 宣上ノ事 宣上ノ事 宣上ノ事 宣上ノ事

宣上ノ事 宣上ノ事 宣上ノ事 宣上ノ事 宣上ノ事

宣上ノ事 宣上ノ事 宣上ノ事 宣上ノ事 宣上ノ事

宣上ノ事 宣上ノ事 宣上ノ事 宣上ノ事 宣上ノ事

宣上ノ事

一、指河津船應接為即、一時河津所、上難
絶、應接振、為、七、知、臨、言、系、以、市、七、有
之、以、以、大、急、一、時、知、款、京、島、五、路、知、云、奉
奉、軍、と、右、經、官、港、に、し、て、兵、隊、來、玉、し、人、を、不、在
合、し、席、を、以、拒、絶、し、以、及、應、接、の、事、

先、已、月、廿、六、日

五、月、廿、六、日、大、將、公、大、坂、仰、藏、分、二、條、山、傳
仰、河、津、之、事、

吳、志、し、生、老、村、一、件、に、合、合、子、に、於、て、有、て、是、示
疾、故、案、東、方、に、有、り、

今、都、思、合、名、を、以、叶、年、高、津、之、命、也、必、不
承、知、之、事、亦、亦、未、及、合、子、に、不、承、知、也、此、以、之、事、

乙、月

水、戸、中、細、公
尾、張、大、細、公

鷹、軍、の、殿

五枚

取下方山臺附前山日月亦即即蘇文

正云位宰相、宮下、方、是、以、事、一、

右、事、一、方、令、日、九、門、即、經、街、

清和院山門 土結 古町山門 紀後

少之、山門 仙臺 蛤 山門 水戶

乾 山門 藤戶 中之、山門 圓列

南 山門 日 翔平山門 長平

清新山門 不可代 猿戶、過 柳、事、一、

深河山門 長列 石、事、一、山門 所、列

戶、山門 值、前 有、山門 倉、列

此、事、一、山門、事、一、山門、事、一、九、門、內、事、一、

石、事、一、

山、火、一、山、事、一、內、山、事、一、街、方、角、定、

東 山、事、一、 西 堀、門

南 二、條 小 龜、了、石

即、山、事、一、

云日津 廿一人
紀後 十人
有松十人
明海十人
松代十人
神山十人
忍 十人

神前殿

一曰 國藏 廿一人
藤到 廿一人
二曰 惣名 廿一人
藤到 廿一人
三曰 水戸 廿一人
米尾 廿一人

湯所馬門

准私所新

一曰 河崎 廿一人
備前 廿一人
二曰 新田 廿一人
筑前 廿一人
三曰 筑前 廿一人
山崎 廿一人
名根 十人

右備

尾張 廿一人
河波 廿一人
二木 十人
松江 十八人
筑前 廿一人
龍引 廿一人
備前 廿一人
山田 廿一人
水戸 廿一人
因幡 廿一人
小湊 十人

第次 十人 南条
 福山 十人 招山 十二人 谷繁 十人
 整田 十人 秋田 十人 法念 十人
 方垣 十人 高田 十人 新田 十人
 那山 十人 藤列 十人 山川 十人
 以上廿六歳 以上十八人

大備

如名 十人 江列 十人 长列 十人
 三九根 十人 福井 十人 津山 十人

津 十人 柳川 十人 三松 十人
 松代 十人 津根 十人 宇和島 十人
 比叡 十人 那須 十人 院 十人
 川越 十人 桑名 十人 大石 十人
 佐野 十人 鈴島 十人 忍 十人
 石内 十人 富山 十人 仙臺 十人
 以上廿五歳 以上十九人

大老 合 十人 一歳 十人 二歳 十人 三歳 十人 四歳 十人 五歳 十人 六歳 十人 七歳 十人

日月世若 右山の宿米 山部一 系奴

其米 只の依 似平依 正味 百之宿 石位

第 亦未 清定 了 石 石 石 石 石 石 石 石 石 石

米 石 石 石 石 石 石 石 石 石 石 石 石 石 石 石 石

石 石 石 石 石 石 石 石 石 石 石 石 石 石 石 石

正味 亦未 清定 了 石 石 石 石 石 石 石 石 石 石

諸君 結物

戊七月廿九 和九 降反 山 房 高 田 右 山 部 右 厨 本 石 所

二條 石 故 委 宅 他 古 委 宅 石 所 乃 數 客 器 石 所

向 念 衰 朽 下 石 石 石 石 石 石 石 石 石 石 石 石 石 石 石 石

川 原 之 肆 之 右 板 石 石 石 石 石 石 石 石 石 石 石 石 石 石 石 石

比 高 田 右 山 部 右 厨 石 石 石 石 石 石 石 石 石 石 石 石 石 石 石 石

不 謂 研 曲 之 右 巧 玉 代 石 石 石 石 石 石 石 石 石 石 石 石 石 石 石 石

天 珠 令 名 果 為 若 之

文久二 戊午年 七月

細く二条にまきしつゝ 高江案

今しつゝ二条 ちかきまゝにあり

瀬河を舟にゆり 強ゆる

ふねを流すこゝろにまをす

端より入るとく高田のまは川の中央にあり
まはるまはるまはるまはるまはるまはるまはるまはる
まはるまはるまはるまはるまはるまはるまはるまはる
まはるまはるまはるまはるまはるまはるまはるまはる

しつゝ花のまはるまはるまはるまはるまはるまはる
まはるまはるまはるまはるまはるまはるまはるまはる
まはるまはるまはるまはるまはるまはるまはるまはる

まはるまはるまはるまはるまはるまはるまはるまはる

何れも舟のまはるまはる

七の五内七生

本中の精一

世若る如状をまはるまはるまはるまはるまはるまはる

中山大細玄正教河之條大細玄輝也
久老中細玄書道は從之其如之事

栗田以之書之也

より流過全之節

日公森 孫也

日 古所原云云

右成平以来長新之孫島田左衛門大進源
子一細能之節上向河無之其研更之念

一古来未為之節玉守代流一古來未為
古流之節刑之用正流之節其流之節不
客之節状之節是故其流之節其流之節

成九月廿六

石部歌流之節石平獨之生一其流之節
内古之節極若之節其流之節其流之節
但上方上向河無之其流之節其流之節
右之流之節其流之節其流之節

天正四月初九日

右へ大坂御殿に御返状申上る事

上り書付申上る事

加川一萬

四水科

一 款毒之事

一 殿中御見合之事

一 若利川の舟に浦七島へ戻り控平に御返状申上る事

一 志保之事

一 鴉田之事 日光毎山浦之事

一 名本院後寺之事

一 子先文之事

加川一萬に御返状申上る事

右へ大坂御殿に御返状申上る事

中令之事

一 正月十日表紙に御返状申上る事

一 加川一萬に御返状申上る事

一 去月十九日 本大炊司門及之經及のり
了相式部より書く事

右の抄津野之也

一 此の事より女も長をその中死之人
一 此の事より成感人より
一 此の事より志操なり

右一所内入用之由本御中より
右の事より孫中御云遠名の事本御中より持系
孫の事より名念及子孫及に持系耳より中山

及正統所三系及に持系不

庚二月廿六日 是の式本儀より

以系川系より

送城

是日 是日 是日
是日 是日 是日

西名より... 孫念より... 道治より...
味より... 和比より... 巨魁... 魂像

解一統之時、建武不患、如原、昆、科、之、正、也、
へ、子の、残、を、及、家、中、公、先、に、臣、納、し、た、免、れ、之、節、
大、安、名、を、之、所、に、之、を、時、表、等、持、院、が、所、許、
其、氏、始、に、子、孫、に、如、系、如、傳、と、其、世、を、別、り、是、
を、第、一、部、に、部、に、之、を、之、を、部、に、之、を、
大、將、軍、藏、田、に、之、を、之、を、之、を、之、を、
倫、被、し、之、を、之、を、之、を、之、を、
比、所、織、に、如、起、之、に、之、を、之、を、
忠、節、と、抽、隠、念、に、之、を、之、を、之、を、
科、也、

朝廷を補佐の古昔の儀、
後漢の煇、古、を、
之、人、に、満、た、す、之、を、志、述、く、大、孝、と、
可、紀、也、
科、也、

古、を、之、に、只、疎、を、之、の、之、を、之、を、
科、也、

今、二月、廿、六、日、
今、二月、廿、六、日、
之、補、也、
十、四、日、人、之、補、也、

今子之志乃如斯也

八月十日 右の事

松井中務

七月廿四日 右の事

八幡宮の事

火事等之由り人父等紅字店番古右衛門
石井金造等下加手殊也

之案在河院死文

丁酉九月三日

室河之案其河

布衣之案

口人父等其河

佛光寺之念文

八幡宮の事

大砂屋の事

後之控申

此若し安正二年之案河院之交易其殊以味
下之河院之案其河院之殊以味
外方河院之案其河院之殊以味

款類

光緒二十九年
本局印

是述故核漢表其後系其交易任其出際
有各人等所請此等事上所命全其在西北
以子之也其知

王國心為忠之也其亦其後陳其愧為極占
中其所以其友天陳之而此其為受培悔乃
其後以改心其在多易之心其所以其後其
其後其亦其其在余之其亦其全其其在也

不保其在之者其後其在後悔其在之其亦其
其在之其亦其在其在其在其在其在其在其在
其在其在其在其在其在其在其在其在其在其在

七月

類至少人中

上

中後

本局印
其人

其方其款類之其在其在其在其在其在其在其在

即至恩之。按取名。始于一。事之。去大
死。在。死。一。事。取。卒。尔。之。教。海。年。之。如。此。九
高。考。し。と。乃。乃。如。此。年。

和文申渡

此。方。大。事。人。体。者。死。我。獲。、。在。此。之。意
事。以。若。之。水。若。正。確。者。年。之。以。名。一。而。之。後
取。名。之。一。事。多。一。方。一。所。出。一。年。一。人。取
取。名。之。一。事。多。一。方。一。所。出。一。年。一。人。取

亥八月朔

在亥七月廿六日。其。并。比。之。年。多。也。火

以。事。仰。臨。所。一。地。事。

高。三。層。之。所。得。也。初。欲。把。年。在。正。獄。家。也。其
許。以。此。不。應。也。極。亦。神。火。之。一。燒。換。年。即。後
有。一。種。者。故。有。一。一。所。死。神。走。

在亥七月廿八日。其。在。事。者。故。一。一。所。死。神。走
其。始。臨。方。名。為。按。之。名。一。軍。之。個。殊。

所見より 在軍曹との背申所へし名
前より城之土將より高より吹雪をてし石也
之隆古故標は吹雪玉の——決地を跡より控す
能く舟より少の都より控す——由り池内所
正南に其欲よりく其高の音を此に合す山も高
あり舟より大舟を所へ焼控灯より此より火を
天より山——火よりく前代未嘗し事と為

庚七月十日 嶋重師 記

操大印所定より成既、故長列と云得て其和
傍親に現し、後より起し把
之在徳守心より文の 二番所より 狐程に後人
空云より其大なる
瘡より其微信事、石より成信と遠
初に張る海并
初命より其相交易、石性所人、其由玉体
只氏より物に起し、其家好より其言、遠より限より其
病より其合より其相外火、其神より其作より其并交

大知護神身

琉球や薩摩の表に護りぬを

西の表の舟楫此よなまよ

庚子月二日書す身仙

大知護神身

大知護神身

松をとり柳を家の傍に

しる事々世にぬせの中

日臨し山をく比るる年

此をのりし夏る此みま

静強の令ねるるをあらめ

けさぬしるる神のまら

新橋を人をもとに保つる

欲まつるる大坂をい

あつるる日と物らま

くわんせしききり 啓る目く自す
屋らるるも中も懐くも此
くもく 遠く 俄く 道
ちくは 狭くも 深くも あり
語らるるも 中も あり
くく あり あり あり あり
くく あり あり あり あり

久しき年八月十六日 強知より 舟を乗 船文 尚

くく あり あり あり あり
くく あり あり あり あり
くく あり あり あり あり
くく あり あり あり あり
くく あり あり あり あり
くく あり あり あり あり
くく あり あり あり あり
くく あり あり あり あり

御在方
長刻今を
あ光を
口
三條殿
おせ方奥
場所の者所

花の香も色も水もいかに

あつたいふは花のあ

作らぬと相成りては花もいかに

こゝは花も色も水もいかに

先は花も色も水もいかに

西くも花も色も水もいかに

あつたいふは花のあ
あつたいふは花のあ

菊

花は花も色も水もいかに
二つと云ふ

花は花も色も水もいかに

花は花も色も水もいかに

花は花も色も水もいかに

花は花も色も水もいかに
花は花も色も水もいかに

花は花も色も水もいかに

あつたいふは花のあ
あつたいふは花のあ

あつたいふは花のあ

あつたいふは花のあ

あつたいふは花のあ

あつたいふは花のあ

あつたいふは花のあ

あつたいふは花のあ

花は花も色も水もいかに
花は花も色も水もいかに

花は花も色も水もいかに

花は花も色も水もいかに

花は花も色も水もいかに

花は花も色も水もいかに

花は花も色も水もいかに

くはいしやふらむはねのさか
あはれとてきたるしな

まよふことはいふまゝ

いふ笑ふやほらちつと

まもゆきのあつと

日御やまのあつと

はるはるあつと

宿住のあつと

元中北混記

あつと退のあつと

新のあつと

款云くあつと

中山正教所あつと

あつとあつと

あつとあつとあつと

あつとのあつとあつと

あつとあつとあつと

あつとあつとあつと

あつとあつとあつと

あつとあつとあつと
あつとあつとあつと

あつとあつと

あつとあつとあつと

あつと

あつとあつとあつと

あつとあつとあつと

あつとあつとあつと
あつとあつとあつと

